

平成 26 年度第 4 回緑区地域福祉計画推進協議会議事要旨

【開 催】

開催日時 平成 26 年 12 月 20 日（土）14：00～16：00

開催場所 緑保健福祉センター2階 大会議室

出席者 委員 21 名中 19 名出席、ガイドヘルパー1名
事務局 7 名（緑保健福祉センター長、高齢障害支援課 3 人、社協緑区事務所 3 名）保健福祉局地域福祉課 2 名

【次 第】

- 1 開会
- 2 議題
 - 報告事項
 - (1) 第 3 期緑区地域福祉計画 市民説明会について
 - (2) 平成 26 年度緑区地域福祉計画の推進について
 - 協議事項
 - (1) 第 3 期緑区地域福祉計画の推進について
 - (2) 緑区地域福祉計画推進協議会 小委員会について
- 3 その他
- 4 閉会

【議事及び質疑要旨】

議題（1）第 3 期緑区地域福祉計画 市民説明会について

事務局より、第3期緑区地域福祉計画市民説明会について説明した。
主な発言内容は以下のとおり。

（事務局）11 月 16 日に開催した第 3 期地域福祉計画市民説明会について報告する。
これは緑区計画を含む第 3 期計画を周知し意見を伺うために実施した。緑保健福祉センター大会議室で開催した。参加者は 12 名参加だった。事務局より概要説明し質問を受けた。当日の主な意見は地区部会と自治会の協力体制が必要である・高齢者の見守りについて要支援者の把握はどのようにするのか・自治会などより身近な単位で説明会を開催してほしいだった。また緑区以外の意見としては、地域福祉に対する市民の意識向上につながる取り組みを実施してほしい・地域に対する説明をきめ細かく実施してほしい・自治会の活性化と加入促進・地域に対しての活動が拡充・進展してほしいだった。昨日は社会福祉審議会の地域福祉専門分科会でも審議してもらい承認してもらった。今後は 2 月初頭からパブリックコメントの手続きをし、その後必要に応じて修正して取りまとめていく予定である。

議題（２）平成 26 年度緑区地域福祉計画の推進について

松戸副委員長の進行により各委員から活動報告があった。

主な発言内容は以下のとおり。

- （松戸副委員長）資料 6 に沿って進めたい。おゆみ野地区から順番に報告してもらいたい。
- （田宮副委員）11 月 23 日と 24 日にアートタウンおゆみ野主催の文化祭を開催した。盛大に終わった。おゆみ野女性の会で講演会を計画している。防災から減災に考え方が移行している。1 月 24 日の鎌取コミュニティセンターで行う。
- （中村委員）おゆみ野地区部会の重点目標でふれあい散歩とお楽しみ会を掲げている。障がい者福祉委員会でお楽しみ会とおしゃべり会を開催している。12 月 14 日に鎌取コミュニティセンターで 48 名の障がい児と保護者とスタッフで総勢 180 名が集まった。泉谷中学校の特別学級の子ども達が合唱とダンスを披露した。また障がい者のいる家族を対象におしゃべり会を開催した。自由な討議で会を進めている。次回は 2 月 20 日に第 3 回をおゆみ野公民館で予定している。11 月 10 日に散歩クラブを行った。総勢 60 名だった。約 2 時間の散歩だった。おゆみ野公民館と大百池間を往復した。独居でなかなか外出しない方に来てもらった。車いすも用意した。次回は 3 月 6 日に泉谷公園の散策を計画している。平成 27 年度の重点目標にしているのでさらに充実させていく。
- （本田委員）椎名地区の報告を行う。12 月 5 日に地域住民で米作りをしている方々に感謝の意を込めて小学校 5 年生が主で食事会をした。その日には 6 年生が鞆鼓舞を披露した。椎名小学校の伝統行事になりつつある。また 12 月 2 日には巻き寿司づくりをした。2 か月に 1 回古市場団地お元気確認委員会の連絡会をしている。また古市場団地では月 1 回サロンをしている。サロンで黒豆を箸でつまみ移動するゲームを 12 月に行った。黒豆は持ち帰ってもらった。1 分間で 48 個とれた方もいた。
- （土橋委員）古市場団地では見守り活動のボランティア同士の意思疎通がうまくいってないところもあり、随時対応している。
- （中村和委員）土気で有償運送しているので報告を行う。事業の黒字化についてだが 10 月から迎車料金を新設し増収となった。また情報の共有化についてだが、有償運送を立ち上げるためのマニュアルを作成するための参考資料を収集している。2 月の会議には具体的なものを提示できると思う。
- （峰村委員）土気地区部会の活動を報告する。ふれあい食事会を土気公民館と越智公民で開催している。土気公民館は 12 月にお楽しみ会としてカラオケ・ゲームも実施した。子育てサロンでは 11 月 27 日に日赤から講師を招き救急法を開催した。全市民対象事業として 11 月 23 日に昭和の森でウォークラリーを開催した。
- （野崎委員）土気町内自治会の報告をする。防災マップの進捗状況だが、10 月以降では国土交通省のホームページから土砂災害に関する資料を手に入れて自治会に配布した。去年おゆみ野地区で作成した防災マップを参考にして

いるが、地図に落とし込みたい情報がたくさん出てきている。電話番号を含む広域避難所や防災井戸の場所、土砂災害の危険箇所等を入れていく。河川の情報はまだこれから考えていく。

(江澤委員) 土気地区の民生委員として独居高齢者の見守りをしている。12月21日に社協土気地区部会主催で民生委員と自治会が集まって具体的な方法を協議する。高齢者だけではなく子どもの見守りを考えていく。

(大槻委員) 避難所運営委員会については学校と施設を結ぶ活動をしている。高田地区の自治会と障がい者施設で協議している。障がい者については施設で受け入れてもらう。避難者向けの地図を作成している。現在は広告業者を募集している。見守り活動の強化として本日午後5時から話を行う。かるた遊びについては緑区の地域支援事業で使ったものを美しくする会からも助成金をいただいて地域で広めている。

(鴨委員) 千南会としての報告をおこなう。毎月例会を行っている。1月は新年会に変えている。基本的には講演会や研修会、家族間の話し合いを普段は行っている。特に自宅に引きこもっている精神障がい者が非常に多い。おそらく10名のうち1名は関わっていると思う。引きこもりは非常に多くの問題を含んでいる。12月の例会では17名の参加で2時間のビデオ鑑賞をした。内容は分子生物学の講演だった。講師は遺伝子組み換えや新薬開発をしている方だった。

(廣田委員) 10月7日から10日まで千葉市文化センターで障がい者作品展を行った、469名が来所された。障がい者の絵や工芸品、写真を見てもらった。毎年行っているがリピーターが増えている。

11月1日の市政だよりに12月6日にハーモニープラザで千葉市障がい者福祉大会の観覧希望を100名募集で掲載した。小学校や中学校への障がい当事者が出向いて子ども達と触れ合う事業を進めている。身体障害者連合会で問い合わせしてもらいたい。1月28日13時45分から越智小で福祉講話として出向く予定でいる。3年生を対象にする。

(石本委員) ときわ園の活動報告を行う。地域との交流を進めている。11月24日に小谷小学校を利用者5名と施設職員3名で訪問した。11月2日には緑区ふるさと祭りで新人職員4名が参加した。普段は高齢者と接しているが、この日は子ども達とふれあい、職員の成長になった。11月19日に障がい者施設を訪問しコラボ事業を協議した。11月26日に越智中学校3年生に地域福祉をテーマにお話をした。またボランティアの受け入れをしている。10月20日にあすみが丘プラザで活動している尺八グループにきてもらった。10月28日にことぶき大学のハーモニカのグループ(赤とんぼ)のコンサートをした。生涯学習センターの紹介で絵手紙の先生に来てもらった。菅田の民生委員だった。月1回来てもらえることになった。3月に幼稚園生に来てもらい高齢者とふれあう検討をしている。実習生については千葉県ジョブサポートセンターからの受け入れをした。9月に男性に特別養護老人ホームの介護体験を受けてもらった。

(岡本委員) あんしんケアセンター兼取の報告を行う。来年4月からの介護保険改正が

控えている。地域に求められている生活支援サービスについて国のガイドラインを参考に説明したい。千葉市で詳細が決まっていないので現時点で国が出している方向性である。別紙3を見てほしい。総合事業の概要になるが、要支援1や2で訪問介護や通所介護を使っていた方が今度は総合事業にうつることになる。総合事業は①訪問型・通所型サービスと②その他の生活支援サービスに分かれる。②その他の生活支援サービスの中に定期的な安否確認とある。こういったものが地域で求められることになる。参考として2枚目の総合事業と生活支援サービスの充実を見てほしい。予防給付が地域支援事業に移行となっている。訪問介護のところを見てほしい。住民ボランティアによるゴミだし等の生活支援サービスとある。これまではヘルパーが行ってきたが、これをボランティアという趣旨である。また通所介護から地域支援事業への移行内容にもコミュニティサロン、住民主体の運動・交流の場とある。これまではデイサービスで行ってきたが、これを地域でのサロンで行ったらどうかということである。地域でいろいろやってほしいという方向性である。古市場で見守りを行っていたり、サロンもやっている。千葉県流山市では利用券を発行しボランティアがサービスを行っている事例がある。低額の謝金でボランティアが地域で支えあっている。サービスを提供したい人が提供会員として登録している。サービスを利用したい人は利用会員として登録し利用券を購入している。提供会員は利用券を受け取って清算している。1時間800円のうち600円が謝金、200円が会の運営費になっている。介護保険サービスが地域で取り組んでいくことになる。地域でできることは地域でやることになっている。この場でも検討してみてもいいと思う。

(烏山委員) あんしんケアセンター誉田では2か月に1回民生委員と連協と社協で会議を行い、情報交換を行っている。9月から7つの老人会を訪問した。多くの会員がいた。認知症家族のためにオレンジカフェをオープンしているが送迎がないのと天気が悪く、参加者が平均3名で少ない。今週は8名来てくれた。千葉市の介護支援ボランティアでのポイントを押す方に介護保険課から提案がありオレンジカフェのボランティアも対象になった。これは市のモデル事業として在宅高齢者を支援するボランティアへの取り組みで市内では西小中台の家事援助サービスとオレンジカフェが12月から3月にかけて行うことになった。

(布施委員) あんしんケアセンター土気の報告をする。地域の活動に参加している。10月に大椎台のカフェで健康の話をした。11月には2箇所のサロンに伺い周知している。3年前くらいから土気高校から認知症の勉強をしたいということで、1年生8クラスにサポーター養成講座をしている。12月に土気いきいきセンターと越智いきいきセンターで介護保険の説明をしている。来年度も継続していく。

(廣田委員) 区内の障がい者同士の連携を図ることを目的にしていて9月にカラオケ交流会をシダックスで行った。聴覚障害の方も参加しやすいものを次回は企画したいと思っている。

- (中村和委員) 岡本委員に質問したい。総合事業の中で栄養改善の配食についてだが、3月に市が打ち切る。
- (事務局) 高齢福祉課の説明では利用者が減っているのと、民間の配食業者が育ってきたので必要性がなくなってきたと聞いている。利用者には市内業者のリストを配布して説明していく。セブンイレブンとは見守りの提携をしている。市内であればどこかの業者のサービスが受けられるくらい充実している。配食は500円に市が400円だして900円の弁当になっているが、民間はもっと安くなっている現状もある。
- (根本委員) 椎名地区では独居高齢者に年末慰問金をもち代として3,000円配布している。財源は2月に実施しているバザーの収益金でしている。今年は20名が対象になっている。
- (鴨委員) 新計画のタイトルの支えあいのまちづくり推進だが実態は伴っているか
- (事務局) 計画のタイトルは第1期第2期緑区地域福祉計画としていたが、福祉が市民にどうとらわれているか考えた。共助の取り組みを含めての福祉であるはずが、行政が法的サービスを給付するものととらえている方も少なくない。福祉を全面にださず支えあいのまちをイメージできるものとして支えあいのまちちば推進計画というタイトルにした。
- (岡本委員長) 第3次計画では各地区の諸団体が集まってその地区で課題になっていることを出し合い、解決していく自助共助でやっていく。もし難しければ公助をいれていく。具体的な資料は今後配布されていくと思う。岡本委員に質問がある。NPOは各地区で作らなければいけないのか。
- (事務局) NPOを立ち上げるかはまだ決まっていない。自治会とかがやってくれば市が補助金を出すことになるか、給付になるかもこれから決まっていく。ボランティア団体に対して給付や補助をしていくことに変わっていく。NPOが立ち上がっていくのは理想的にはいい。
- (岡本委員長) 仕事が煩瑣にならなければいいなと思う。
- (事務局) 現状よりも手厚い内容を求めることになる。対価として給付や補助ができることになる。詳細はこれから決めることになるが、流山の例が増えてくるのではないかと思う。
- (岡本委員長) あんしんケアセンター土気では土気高校に行って認知症の講習会を行っているようだが、誰が話をしているのか、費用はかかるのか、どのような内容なのか。
- (布施委員) 認知症に理解がある人に研修を受けてもらいキャラバンメイトとして育成している。ケアマネや民生委員に受けてもらっている。その方が講師をやっている。もちろんあんしんケアセンターの職員もその研修を受けている。費用は無料で行う。学校の50分授業で行った。1クラスずつやった。8クラスあるので3日間かかった。
- (岡本委員長) 越智小の福祉講話はどのような内容か、委員も参加できるか。
- (廣田委員) 越智小ではお話とガイド体験を行う。
- (事務局) 要望があれば委員も参加できるように進める。
- (岡本委員長) 鴨委員に質問です。椎名地区に40歳代の方で自分はうつ病だという方が

いた。地区でどう対応できるか考えている

(鴨 委員) メンタルヘルスケアのガイドラインを国が作っている。4つのケアをすることとしている。企業の中でメンタル不全になったことを想定している。一般的に子供や高齢者は国の4つのケアにかかることが難しい。偏見や自分の立場でなかなか相談所に行けない実態もある。千南会の会合に来られない方もいる。例えば教員である。うつ病の方もいるが、立場上、そのような社会資源にたどり着けない実情がある。

(松戸副委員長) 福祉有償運送のことについてももう少し具体的に知りたい。

(中村和委員) 今年8月に料金形態の変更を申請した。今までは3キロまで500円、1キロ増すことに100円だった。概ねタクシーの2分の1以下で承認されていた。去年秋からガソリンが高騰し、値上げを申請したが基本料金についてはタクシー料金の観点で認められなかった。しかし迎車料金は認められた。タクシー会社は今でも迎車料金をとっているのもそれと同じやり方で対処することになった。事務所がある大木戸町から1キロ50円、それ以上は100円をとる仕組みが承認され増収になった。

協議事項

議題(1) 第3期緑区地域福祉計画の推進について

各地区に委員が分かれ第3期重点項目について協議

議題(2) 緑区地域福祉計画推進協議会 小委員会について

岡本委員長より、小委員会について説明した。

主な発言内容は以下のとおり。

(岡本委員長) 来年は小委員会の活動を進めたい。障がい者のグループ、見守りのグループ、学校と施設のグループを作っていくので参加して行ってほしい。先ほどの越智小での活動や土気高校の活動を小委員会でも参考にバックアップしていきたい。委員はどこかのグループに所属してほしい。事務局に入りたいグループを申し出てほしい。

委員長が閉会を宣し、第4回緑区地域福祉計画推進協議会は散会。